

いちご



主な加害種: ヒヨドリ、カラス、アライグマ、ハクビシン、アナグマ、ネズミ類(種子)、カワラヒワ(種子)

いちごはハウス栽培が主であるが、換気口や隙間に侵入防止対策をしていないと、ヒヨドリや獣類が果実を食す。露地栽培ではカラスやアナグマにも食害される。一見、普通に見えても、種子だけなくなっていることがあり、カワラヒワやネズミ類による食害と考えられる。



加害種: カワラヒワ

実はそのまま表面の種子のみが食べられている。カワラヒワが実の上に乗って食べているのが生産農家によって観察された。ネズミも種子のみを食べるので注意が必要。

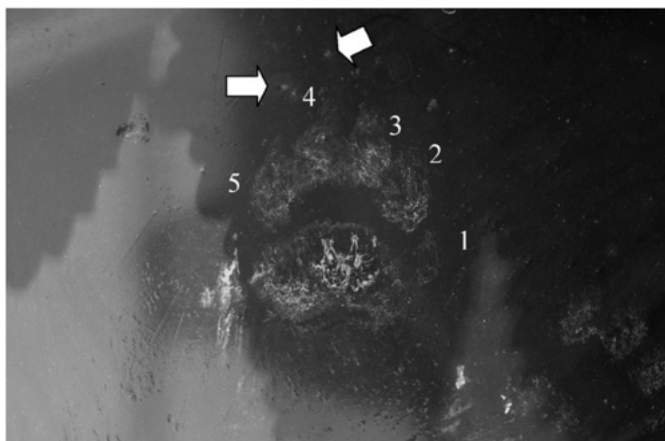
提供: 香川県小豆農業改良普及センター



加害種: アナグマ

露路圃場において、熟した果実が取り去られて軸(柄)だけが残し、ヘタが落ちていた。食害を受けた苗下のマルチシートにはアナグマの特徴的な足跡(次の写真参照)があり、アナグマはいちごの敵(列)の間を歩きながら、熟した果実を選択的に口で摘み取って食べるものと推測された。

撮影: 竹内 (出典: 竹内(2007) 日本応用動物昆虫学会誌 51(3):187-196)



加害種: アナグマ

圃場マルチシート上に残ったアナグマの足跡。指球が5つでイタチ科の特徴を現し、爪の先端の痕(矢印)が残る。

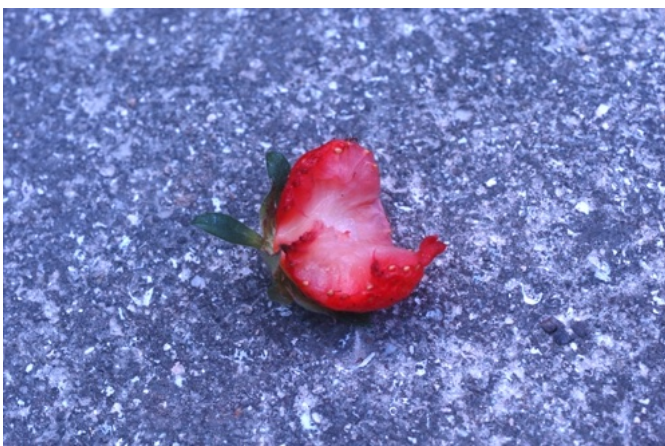
撮影: 竹内 (出典: 竹内(2007) 日本応用動物昆虫学会誌 51(3):187-196)



加害種: アナグマ

果実を軸からもぎ取って食べ、ヘタを捨て去っていた。

撮影: 竹内



加害種: アナグマ

アナグマは、果実を軸から口でもぎ取り、全食することが多いため、このようにかじり跡のある果実が残ることは稀。甘いお尻の部分が食べられている。

撮影: 竹内 (出典: 竹内(2007) 日本応用動物昆虫学会誌 51(3):187-196)



加害種: アナグマ

防護対策として設置されていた防虫ネットが、爪で裂かれていた。掘り跡は爪跡が深く刻まれ、鎌で切り込んだような鋭さで、深さ3～5cm、幅は前足の幅に相当する5cm程度だった。圃場の側面を覆うネットがよじ登れない形状だったため、アナグマは相対的に攻めやすくなった地面を掘って圃場へ侵入した。

撮影: 竹内 (出典: 竹内(2007) 日本応用動物昆虫学会誌 51(3):187-196)



NAROchannel <https://youtu.be/qJQsqxdymIY>
で動画を見ることができます。

＜参考＞ハクビシン

庭先でポット栽培しているいちごをハクビシンがねらっている様子。夜にやって来て、鉢の縁に前肢をかけ、いちごの株の中をのぞき込むようにして果実を探していた。この動画では食べる瞬間は確認できなかった。

ハクビシンは熟した果実の部分だけをかじって食べ、ヘタや軸は残すことが多い。

提供: 飯塚康雄氏